国際交流体験記

2011

日本大学国際関係学部
日本大学短期大学部（三島）

そこに夢を描こう

夢の実現に向けて

国際交流プログラム

国際関係学部では、世界各国の大学等と交流を図り、そのネットワークを利用して交換留学、海外研修など多彩な国際交流の機会を提供しています。

交換留学

日本大学本部及び国際関係学部と交換留学に関する協定を結んでいる大学との間で、学生を相互に派遣・受入れする制度です。留学中に修得した授業科目の単位を認定することにより、4年間での卒業が可能です。留学期間は1年間です。

平成22年度実績

日本大学派遣交換留学

北京大学（中国）、ラッペンランタ大学（フィンランド）、オレゴン大学（アメリカ）、ワシントン州立大学（アメリカ）、慶熙大学校（韓国）、ストックホルム大学（スウェーデン）

国際関係学部派遣交換留学

モンタナ州立大学（アメリカ）、WITT（ニュージーランド）、セント・ノーバート大学（アメリカ）、静宜大学（台湾）

中期留学

国際関係学部と協定を結んでいる大学へ留学するプログラムです。留学期間は約６か月間です。

平成22年度実績

北京大学国際関係学院（中国）、ゴア大学（インド）、セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ）

私費留学

留学したい大学、留学期間を決め、各自でその大学との手続を行い留学します。

短期海外研修

日本大学本部及び国際関係学部と海外研修に関する協定を結んでいる大学で、実施されるプログラムです。研修期間は夏期・春期休暇中の約１か月です。

平成22年度実績

北京大学国際関係学院（中国）、ストーニーブルック大学（アメリカ）、WITT（ニュージーランド）、ハワイ大学（アメリカ）

ティーチング・インターンシップ

学生が海外の小学校等で生徒たちに日本の文化を紹介したり、初級程度の日本語の授業を行うプログラムです。期間は約２か月です。

平成22年度実績

タウンズビル市（オーストラリア）、ニュープリマス市（ニュージーランド）、サウスカロライナ州ランカスター郡（アメリカ）

CONTENTS

国際交流プログラム 3

交換留学（派遣）

本部派遣 ワシントン州立大学（アメリカ） 6

オレゴン大学（アメリカ） 7

学部派遣 モンタナ州立大学（アメリカ） 8

セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ） 9

ウェスタン・インスティテュート・オブ・
テクノロジー・アット・タラナキ（WITT）（ニュージーランド） 10

交換留学（受入れ）

学部受入れ フランス経済商科大学（フランス） 11

ストーニーブルック大学（アメリカ） 12

セント・ピーターズ大学（ISEP アメリカ） 13

中期留学

北京大学国際関係学院（中国） 14・15

ゴア大学（インド） 16・17

セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ） 18〜20

私費留学

西カトリック大学付属語学学校（フランス） 21
トロント大学付属語学学校（カナダ） 22

短期海外研修

ストーニーブルック大学（アメリカ） 23
ハワイ大学（アメリカ） 24
北京大学（中国） 25

ティーチング・インターンシップ

Devon Intermediate School（ニュージーランド） 26
Belgian Gardens State School（オーストラリア） 27

教員の交流

北京外語大学（中国） 28

交換留学（本部派遣）

ワシントン州立大学（アメリカ）

留学期間：平成21年8月15日～平成22年5月13日

～留学中の変化と成果について～

国際交流学科　5年
松原 慎

私にとってアメリカの四年制大学に10ヶ月在籍し、アメリカ人だけでなく国籍の違う人々と同じ教室で同じ授業を受けたこと、それら1つ1つの経験は言葉以上に衝撃的であった。数ある自分の中の変化の中1つは、言語的な側面である。将来日本の英語教育に従事したいと考えている私にとって、日本の英語教育を再考するのにはとても有益な経験であったと思う。欧米人だけでなく、教育環境の近い日本人を含めたアジア人とも交流した。そこで得た経験は、昨今マスコミや書籍などで盛んに議論を重ねられている英語教育について、将来生徒に伝えられること、英語の魅力を自分だけの主観的な見方だけではなく、多角的な側面からアプローチする良い材料になると思う。自分の英語力の向上ということに関しても、言うまでもなく有益なものであった。しかし、1つ気付けたことは、「英語が話せる」ということと「アメリカの大学で生き残る」ということは違うということである。日本の大学の環境とは違い、アメリカの学生は全員学問に対して「熱心」であり「真面目」であった。誰もが良い成績をとり、良い会社に就職したいと考えている。そのような学生と共に勉学に励むということは、英語が話せるだけではとても置いていかれてしまう。やはり、自分がどれだけ集中し、どれだけ自分の中で頑張ることができるかということが重要であった。毎回のように、膨大な量の宿題を提出しなければならず、それに慣れるまでに秋学期を潰してしまったように思う。そのような体験や、毎日放課後図書館に残り遅くまで勉強しているアメリカ人を見ていると、自分の中の「アメリカ人」というイメージも大きく変化した。私は彼らを怠慢だと思っていたが、正反対であった。日本で報道されていることや本に書かれていることは、特に文化的なものや価値観が大きく反映されるものでは、自分が現地にいって実際の世界を見なければ本当の意味というのはわからないということも知った。

2つ目は、自分がこの留学を通しての成果として挙げられるものは、今日の縮小された世界では人種、国家間の相互理解というものの重要性を感じたことである。アメリカは、大戦中、日本とは敵国であり、韓国や中国は歴史的に深い関係を持っている。しかし、今の日本人の学生がアメリカに対して憎しみを感じるであろうか？韓国人は日本人を恨んでいるのであろうか？という疑問は現地にいってアメリカ人の友達や韓国人、中国人の友達と会話をしていく中で、理解できるものであり、国家間の争いと、人間一人一人の関係というのは必ずしも国によって決められるわけではないということを学んだ。

最後に、このような機会を与えてくださった日本大学並びにワシントン州立大学の方々、両親、友人に感謝の気持ちを結びの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

ハウスメイトと

フロアの友人と

オレゴン大学（アメリカ）

留学期間：平成21年9月12日～平成22年6月17日

世界からの日本

国際文化学科　4年
山中 望美

私が留学しようと思った理由は専攻の日本文化を外国という外からの視点で学びたい、日本を見つめ直してみたいと考えたからです。私は日本文化を日本で日本人の教授から日本語で学んできました。しかし外国ではどのように日本文化を教えているのか興味を持ち実際に自分で体験したいと思うようになりました。

私が留学していたオレゴン大学では日本やアジア関連の授業だけでなくボランティアそして日常生活を通して日本に触れる機会があり自分が知らなかった部分や再確認した部分が多々ありました。初めに、驚いたのは日常に日本が溢れていた事です。学生食堂や近くのレストランでは寿司やうどんなどの日本食が提供され、街には自動車や文房具などの日本製品、寮や校内では日本の漫画を読んだりアニメやドラマをみたりゲームをしている学生が沢山いて、外国にいながら日本を身近に感じました。改めて日本のポップカルチャーの偉大さを再確認しました。次に、私が履修していた日本史のディスカッションのクラスで戦争についての映像を観た際、被害を受けた国の学生間で反発が起こりました。しばらくして事は納まりましたが、私は被害国側の詳しい状況も知らず、この様な場面で何もできない自分に無力さを感じました。私達は母国で母国視点の歴史を学んできたので自分の国を中心に物事を考えがちです。実際に日本では詳しく触れられなかった事実がその被害を受けた国では大きく取り上げられているのを痛感し、理解していたつもりが世界規模で見るとまだまだ知らない部分が多くあったと考えさせられました。しかしいくら非難されてもいくら後悔しても過去を消すことはできません。その国の良い部分も悪い部分も両方踏まえて将来に向けどの様に良い国際関係を築いていくかが重要だと思います。その為には歴史だったり文化だったりまずは自分の国について様々な角度から学び、外国の歴史や文化に対して尊重する気持ちを持つ事が大切だと思いました。

この留学を通しアメリカで日本文化を学ぶ事により今までとは異なる視点で日本を見つめ直す事が出来、さらに新たな発見をする事が出来ました。日本について学ぶ事が自分自身を深く知る事にも繋がったと思います。また、寮での共同生活、授業、ボランティア、クラブ活動でかけがえのない友人が沢山出来、共に喜び、辛い時は支え合い充実した楽しい留学生活を送る事が出来ました。しかし留学は「楽しい」事だけではありません。「楽しい」の裏側には困難な事も多々あります。自分にはできない無理だと思っても諦めずにそれを乗り越えようと努力し続ける事が自分の成長に繋がって行くと思います。そして悔いの残らないよう様々な事に積極的に挑戦し、限られた時間を有意義に使う事が大切だと思います。

最後に、この場を借りて、この留学に関してお世話になった日本大学国際課の皆様、国際教育センターの皆様、ゼミナールの西田司教授、福井千鶴准教授、国際研究室の皆様、友人、家族に感謝の意を表したいと思います。

pic of UO jersey

寮の友人らとフェアウェルパーティーにて

交換留学（学部派遣）

モンタナ州立大学（アメリカ）

留学期間：平成22年1月7日～平成23年1月12日

Reciprocity

国際交流学科　3年
稲田 雄一

この留学での目標は、「なんでも笑ってごまかさない」であった。英語を話す時、聞き取れていないのにも関わらずその場しのぎの作り笑いをしている自分が嫌だった。困ったらなにかと笑ってごまかそうとする。そんな自分を続けていたら自分の意見を述べる事はできないだろうし、なによりも相手に失礼だと思っていた。お互いがお互いの言っている事を理解して初めて会話が成り立つ。当たり前のようなことかもしれないがその壁をぶちこわさない限り自分の英語力やコミュニケーション力だけでなく、自分自身に自信を持てる日は来ないと感じていた。妥協していては始まらない。そんな思いを胸にこの留学はスタートした。

私が留学生として選ばれたモンタナ州立大学（MSU）は、ボーズマンという小さな町にある。イエローストーン国立公園が近くにあり山に囲まれて自然が溢れているが、中心街には特に何も無く大学で成り立っているような町であった。逆に言えば、この環境がMSUの良さでもある。まずエンターテイメントを発信するような場所がここボーズマンには無いので、勉強に集中できる環境が整っている。アメリカの大学は卒業が難しいと聞いていたが、その理由は簡単でしっかり勉強をしないと単位が取れないからであるだろう。図書館は朝の7時から夜の12時まで開いており、学生たちはここに足を伸ばしてはペーパーを書いたり教科書を読んだりコーヒーを買ったりする。私自身、夜中の12時まで図書館に残るのが日課であった。むしろ12時までは足りないくらいの課題の山に直面するので、夜通しでペーパーを書く日もしばしばあった。妥協せずにやってこれたのは、勉強に集中できる環境がMSUにあった事が理由の一つであるのは間違いない。

勉強も一生懸命するが、遊びも一生懸命するのがアメリカのスタイルである。確かにボーズマンには特にこれといったものは無いが、夏はハイキングやフライフィッシング、ロッククライミングなど、冬はスキーにスノーボード、アイスクライミングといった自然と戯れる機会が多く与えられている。ここでしか出来ない体験を出来るだけ多くしたいと思っていた私にとっては最高の場所であった。キャンパス内でも色んなスポーツをする事ができる。天候がいい時はバスケやアメフトはもちろん、サッカーやフリスビーなどキャンパスのあちこちで行われている。Intramural Sportsと呼ばれる校内スポーツ大会ではインターナショナルなサッカーチームに所属し、見事優勝した。30チーム以上ある中の頂点に立った時は素直に嬉しかったが、それよりも色々な国から来ている留学生と一緒にプレーする楽しさがいつも新鮮であった。勉強の気分転換にもなる上に沢山の出逢いがあるのがスポーツの素晴らしさである。

留学も半年が経った頃には自分の英語やコミュニケーションの仕方に自信を持てるようになっていた。色々な所に連れてってくれ何かと頼りになったアメリカ人の友達や、サッカーを通じて仲良くなりいつもご飯を食べさせてもらっていたカザフスタン人の友達、同じ授業を取っていて毎日図書館で共に勉強したり、一緒に遊んだりした韓国人や中国人、サウジアラビア人の友達。国籍という枠を越えた人とひととの付き合いの中で文化の違いをお互いに感じ、尊重しつつも自分の意見を伝えることの大切さ。時には国際事情について真剣に議論したり、時にはふざけあったりからかったり、励まし合ったり。ごまかしの笑顔ではなく本物の笑顔を出せるようになってからは、もっと自分を世界に出す事ができるようになった。価値のある一年間を過ごせた事、沢山の人が支えてくれた事に感謝したい。

Grand Canyon Trip

セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ）

留学期間：平成22年1月22日～平成23年1月19日

～ My experiences at St. Norbert College ～

国際交流学科　4年
神戸 麻耶

I had a wonderful opportunity to study at St. Norbert College in the United States for one year as an exchange student. I decided to study abroad because I strongly believed that college is a time not only for academics but also for learning about myself. Through my experiences at St. Norbert College, I could gain more advanced knowledge, expand my abilities, and learn more about who I am.

When I just arrived at St. Norbert College, I faced a lot of difficulties because of my English skills. Whenever I went to classes I had many questions about lectures, and I was behind in the classes. St. Norbert College is well known for providing many academic support services especially for international students. Then I decided to use the services as much as I could such as tutoring in order to advance myself, and I tried to get better grades in classes. In the circumstances where I had no families or friends, I carved a way for myself, and I worked hard to be a better student. Through those experiences, I believe that I became more independent than before, and I could learn very important things which are wherever you go, there are people who will help you, and you can never live by yourself. My professors, tutor, classmates, host family and friends, I really appreciate everyone who helped me, and I could have never had the wonderful experiences there without them.

Studying abroad was my dream since I was little. Now my dream came true, and I have to move toward the next step. I am sure it will be a very hard way to go. However, I strongly believe that, unless I give up on myself, the way will be never ending and there will be always people who support me there. I also believe that if I try hard, I will be able to gain important lessons from it, and those lessons will help me when I face problems someday. My experiences at St. Norbert College taught this to me. I really am happy and proud that I could study abroad at St. Norbert College.

graduation ceremony

my friends

交換留学（学部派遣）

ウェスタン・インスティテュート・オブ・テクノロジー・アット・タラナキ（WITT）（ニュージーランド）

留学期間：平成22年2月27日～平成22年12月20日

Found a Lot from Nothing

国際交流学科　3年
楠木 千恵

「2010年を一単語で表すと !?」私は迷いなく答えられます。Challenge と。良くも悪くも、この10カ月は、私が20年間培ってきた常識を大きく覆したのと同時に、私の視野も広げてくれました。

2月26日に日本を出発し、27日にニュージーランドのニュープリマス市に到着しました。最初に、驚いたことは、訛り。Today すら聞き取れていなかった私。ホストマザーがいろいろな話をしてくれたのですが、最初はほとんど理解できませんでした。

私の通ったところは College でも、University でもありません。日本で言うと、専門学校のようなところ。そこで最初の4カ月半、英語を勉強しました。英語で英語を勉強するのは、話を聞くのも、プリントを読むのも、全部が勉強に。そして、気づいたことは、日本人は難しい単語ばかりを勉強するけど、意外と、簡単な、日常で使う単語は知らないということ。日本語で、私たちが言葉を省略するように、英語でも長い名前を持つものは、省略して呼ばれます。話すときに、文法なんか気にしなくていいのです。 Broken English。言葉って、きっとどこに行っても同じなのではないでしょうか。

英語のクラスの良かったところは、クラスメイトが様々な国から来ていたこと。みんな、独自の文化を持っているし、そのことについて、授業外の時間にみんなで話すのは、とても新鮮でした。また、年齢の幅も広かったので、単に大人の意見が欲しい時にも、相談に乗ってもらったり、恋愛の話をしたり、英語を話せるだけで、より多くの国の文化や人の意見を聞くことができるのは、素晴らしいことだと、肌身で実感することができました。

後期は、ビジネス管理をニュージーランダーと一緒に勉強することに決めました。最初は、本当に私の英語は、Kiwi と勉強するに値するほど十分なのか、不安で仕方がありませんでした。そして、案の定、最初の1週間は全部の授業で涙をこらえる羽目に。自分で決めたからには、逃げたくない、だけど、先生のしゃべるスピードは速いし、周りの人が作業を終えるスピードもとても速く、私は、書かれている質問を読むのにも時間がかかっていました。

だけど、慣れていくうちに、自分のペースも見つけられるようになりました。授業中、話す機会は英語を習っていた頃より減ってしまいましたが、ビジネスや会計に関する単語を使った授業が主だったため、リスニング力は本当に付きました。また、会社で働いている設定で、作業を行う、カスタマーサービスの授業は、受付・電話対応、手紙の作成、お客様の声への対応などを、英語で勉強することができました。大学では、きっと勉強できなかったことを、そこで身につけることができました。

ニュージーランドは日本に比べたら、何もないところです。暇だと思ったことも、いっぱいありました。何でこんな所に来たのだろうとも、はじめは思いました。だけど、誰でも、一歩踏み出せば何かを見つけられるものです。異国で学んだことは、良くも悪くも私の価値観を変えてくれました。

Mt Taranaki

Xie from China, Me and Silvia from Peru

フランス経済商科大学（フランス）

Fall 2010

A semester in Nihon University in Mishima: more than just studying

By : Damien Picherit

I still remember my very first day in Japan as if it was yesterday. For sure, the perspective of living in such a country made me both anxious and excited. However, the strongest feeling I had when I landed in Narita airport was the one of being completely lost. Believe me or not but when you are not familiar with the Japanese language, living in Japan is an everyday adventure at the beginning. Fortunately, I managed to find my way to Mishima and this is where I met for the first time the Nihon university CIELD crew. The welcoming of the exchange students was very well organized so if I had a piece of advice to give to every exchange students, it would definitely be to trust the support of the CIELD office; they are of a great help. Let's go back now to the main point. Of course, I came to Japan to experience the Japanese way of life but also to study. One thing I have really liked during that semester is the classes you can take. Most of the courses I chose were all related to Japanese culture so they really were a "gold mine" of knowledge to me as I came to Japan to know more about this country. Another important point would be the welcoming of foreign students by the local students. They have been very social and kind. In addition, having a lot of free time, I have been able during this semester to explore several cities. All those experiences taught me a lifestyle that I have enjoyed a lot: the Japanese lifestyle. It is true that it took me a few months to get used to this life and still today I get surprised very often, but the point is that every single minute of everyday I am learning something. I have been travelling in many countries during my studies, but I can assure that I have never been in a country that attracted so much my attention. It has been an everyday pleasure to try to live as Japanese people do and to experience pieces of Japanese traditional life. As a conclusion, I would thank the Nihon University of Mishima to have welcomed me. I have lived an unforgettable experience during that semester and I can finally say that I have found what I was looking for since I have been travelling.

I wish I will be back to Japan really soon.

Japanese language class-great memories even if I am too bad.

ストーニーブルック大学（アメリカ）

Fall 2010

My Experience of Study Broad in Japan

By : Ka Lai Yung

Writing this report, I just realized how fast time has passed. I still remember the first day I came to Japan, but now it is almost at the end of my study abroad. The past four months in Japan have been the most unforgettable time of my college years. I am so glad that I came to Japan and met so many amazing friends! These four months enriched my life experience without any doubt.

Before I came to Japan, I did not really know much about Japan. Although I had been taking some Japanese classes in my home university, I didn't really feel the Japanese culture until I came here. Taking classes in Nihon University and discussing with Japanese students are the way to know more about this country, and I really learned a lot this semester. Japanese students are very kind and polite, and they always consider for others first. I still remember when I first came here, I needed to get a cell phone. I don't speak Japanese well and I need a Japanese student's help. I met a Japanese girl named Lisa and she brought me to buy a phone. She also accompanied me to the bank and to do other errands. She used her weekend to help me. I was very appreciative for what she did for me. After that, we became friends. Whenever she went back to her hometown or traveled to somewhere else, she brought souvenirs for me. She did all those nice things and did not ask for anything in return. I felt bad that we did not hang out much because both of us are busy. For her kindness, I will always remember her and really want to say thank you here. There are also many other people who have been helped me. Therefore, I never felt helpless or scared during my time in Japan.

The life at Nihon University is also interesting. The classes that I attended are either medium size or small size classes. Most teachers are very nice and patient. Because we are exchange students, teachers are more caring and try their best to explain the Japanese culture to us if we have any questions. School life is happy and I am having a lot of fun!

Living in Japan for four months, I am amazed by this country. It is no wonder that people say Japan is a high-tech country. I can feel how convenient it is by living here. I can travel around the whole country without a car because the public transportation is so good. Furthermore, food is delicious and healthy. I learned a lot in this country both from the culture and from the people. I will never forget these days, and I believe one day I will come back for visit again!

One small report can never express all my feelings about my experiences for the past four months. However, everything here will be the best memory in my college years!

Rice harvesting trip, and also visiting historical sites in Izu province.

セント・ピーターズ大学（ISEP アメリカ）

Fall 2010

Semester at Nihon University, Mishima Campus

By : Heather Downing

I came to Japan hoping to expand my knowledge of Japanese language and culture, and I feel that both of these goals have been accomplished. Living in another country really gives a person a chance to expand learn brand new things that they never would have known or even heard of otherwise.

One of the best experiences for me at Nihon University was joining *sadō-bu*, tea ceremony club. It was a unique experience that I could never have had in the United States. Most of the students in the club spoke only minimal English and the two teachers spoke only Japanese, so on most days with them, I was really forced to practice speaking and understanding Japanese. I feel that this experience was probably the most helpful in improving my Japanese language skills. Despite the language barrier, I was able to make a lot of good friends, and the teacher I spent most of my time with was very kind and patient.

Joining the tea ceremony club also gave me the chance to experience a part of Japanese culture from the inside rather than the outside. As one of my tea ceremony club friends told me, most of the time, foreigners who participate in Japanese tea ceremony are almost invariably treated as guests. They learn to drink tea, eat sweets, and how to turn the cup and bow when receiving tea. It is unusual for a non-Japanese person to actually learn the art of preparing tea in the traditional way. For this experience, I feel that I have been truly lucky, and I hope I can continue to practice after my return home.

During my stay in Japan, I would say what has made it all the most worthwhile was having the chance to meet so many new friends and see so many new places. In addition to making Japanese friends, I was also able to meet students from all over, including other Americans, a French student, a girl from Hong Kong, several Korean students, and even someone from Mexico. With my new friends, I was able to go on a lot of adventures (thanks to Japan's VERY convenient public transportation system), including visiting Tokyo, Yokohama, Gotemba for its Christmas light display, and to Yamanaka for a scenic view of Mount Fuji, just to name a few. My time in Japan has been the most exciting part of my four years as a college student, and I hope to at least come back for a visit someday. I may even return to Japan to teach English after graduation.

Exchange students spending Christmas in Yokohama.

Myself and other tea ceremony club members dressed in kimono for the school festival.

北京大学国際関係学院（中国）

留学期間：平成22年3月1日～平成22年7月1日

現地で感じた中国の姿

国際関係学科　3年
中嶋 大樹

今回、北京大学への留学は、自身3回目の中国訪問でした。1回目は高校の修学旅行。2回目は大学2年時の1カ月北京短期留学でした。初めて中国を訪問する前の中国に対する私の印象はというと、決して良いものではありませんでした。でも実際に中国へ行くことで感じること、発見、人の温かさがありました。中国へ行ったことがない人の多くは、きっと中国に対する印象は決して良いものではないでしょう。私が中国に行く前にはきまって親や親戚、友達が私にこう言います「中国って安全？」と。確かに中国は日本と比べると治安は良くないけれど、以前よりは良くなっているのだと思います。ただ、メディアが伝える中国の情報は大げさな部分が多いので、治安が悪いのではないか、食は安全なのかなどと不安に感じる人が多いのだと思います。

今回この留学で中国への訪問が3回目の私は、もう新しい発見なんてないだろうという思いで日本を発ちました。

しかし、中国での生活を始めると同時に留学する以前に私の中にあった思いは変わっていきました。新鮮なことばかりで、毎日が充実し、多くの新たな発見があり、多くの経験をすることが出来ました。

私たちは韓国人と一緒に中国語の授業を受けました。授業では、話すことを主とした内容でした。他にも文法や中国の詩など多くを学びました。私たちが韓国人とコミュニケーションをとる場合、中国語を主に使うため、互いに中国語のレベルを高めることができたと思います。さらに、日本と韓国の文化の違いも身近に感じることが出来たことはとても良い経験になったと思います。今まで普通だと思っていたことがそうでなかったり、共通している部分が多いことも分かりました。授業以外に時間があるときなどは、一緒にご飯を食べたり、お酒を飲んだりと楽しい時間を過ごしました。日本語を勉強している北京大学の中国人とも仲良くなり、私が日本語を教える代わりに、中国語を教えてもらったりもしました。

そうしていく中で、私は中国留学を始めた当初よりも確実に自分の中国語のレベルが高くなっていくのを感じました。最初は全く聞き取れなかった中国語が、ある程度相手の話している内容を理解できるようになったり、自分の意思を上手く相手に伝えたりと、自分の中国語に自信が出てきました。

そこで私は、雲南省に1週間の一人旅に出かけました。中国の旅行会社に申し込み、中国人30人くらいと一緒にツアーへでかけました。彼らは家族やカップルで参加している人が多く、私のように1人で参加している人がいる訳もなく、ましてや日本人が1人で参加しているので、最初はとても変な目で見られていました。でも時間が経つにつれ、私にはなしかけてくれたり、写真を撮ってくれたりしました。とても親切で本当にあたたかい人達ばかりで、本当に良い旅となり、色んな経験もできました。

今回の留学の中で、中国語を学ぶことはもちろんのこと、それ以外にも自分の中に無かったものを得て、経験出来たことは今後の私の人生に大きく影響してくることと思います。

1人で参加した雲南省への旅行ツアーでガイドと

万里の長城で出会ったロシア人と

北京大学国際関係学院（中国）

留学期間：平成22年3月1日～平成22年7月1日

中国留学から得たこと

国際文化学科　3年
野上 梨沙

私は今回、北京中期留学を通して本当に多くの事を経験し学ぶことができたと思います。それまで海外経験が殆どなかった私にとって何もかもが始めてで、出発前、不安と緊張で落ち着かない日々を送っていました。しかし、いざ北京国際飛行場に下り立ち、中国の広大な国土や行き交う人々の活気を自分の目で見、肌で実感してみると、これから始まる留学生活への不安は大きな期待に変わり、見るもの、聞くものを少しでも多く学び吸収したいと感じるようになりました。あの時のわくわくとした胸の高鳴りは今でも忘れることができません。そうして始まった北京での生活は毎日がカルチャーショックの連続、北京大学での授業はとても難しくついて行くのに必死でした。今年北京はなかなか冬が明けず、雪が降りしきる寒い中、パン一つ買うにも手古摺るような日々が続き、精神的に参ってしまうこともありました。時間は刻一刻と過ぎていくのに、どうして中国語が上達しないのかと悩み、焦り、日本に帰りたいと思ったこともあります。しかしそんな時一緒に留学に来た友人が、共に頑張ろうと背を押し、支えてくれました。私はこの留学で中国に対する知識や理解だけでなく、かけがえのない友を得ることができたと思っています。

中国で過ごした約6カ月の時間は実に充実していました。日本で本を読んでいるだけでは決して知り得なかった中国の姿を、そこで暮らす人々の生活をリアルタイムで学ぶことができ、中国に対する考えや印象が大きく変わったと実感しています。また、一人の日本人として自国である日本と向き合う機会を得ることができ、日本に対し知らないことが多く勉強不足であったと痛感することが何度もありました。普段何気なく考えていること、行動していることの裏に、日本の文化や習慣が隠れていることに気が付くことができたと思います。

現在国際社会において、日中両国民が持つ互いの印象は残念ながらあまり良くありません。日中間には解決が先送りされている問題が山の様にあります。出発前、私は中国での日本人に向けられる目線は厳しいものだろうと覚悟していました。しかし、右も左も分からなかった私達留学生を暖かく迎え、教え導いてくださった先生方や北京大学で知り合った友人、街で出会った人々の誰もが優しく、親切でした。私はそこに喜びと希望を強く感じると同時に、日中両国が今抱える問題を如何に解決し、更なる友好を深めるにはどうするべきか、これから私に何ができるのかと考えるようになりました。日本人と中国人の容姿は非常によく似ているのに、物事に対する考え方や性格は全く異なります。私達は姿が似ているが故に、同じ感覚や価値観を相手も有していると錯覚してしまう傾向があるのではないでしょうか。似ているからこそ小さな違いが大きく感じ、衝突が起こる、私は中国での生活でこの点に日中両国の相互理解を深めるヒントが隠されているのではないかと感じました。

私は今後、今回の留学で学び得た多くのことを基盤とし、更に日中両国への知識や理解を深めながら、自分なりの答えを見つけていきたいと思っています。

北京大学の未名湖にて

卒業式にて

中期留学

ゴア大学（インド）

留学期間：平成21年9月17日～平成22年2月27日

～生きる～

国際関係学科　3年
中村 綾香

ゴア大学の留学プロジェクトでは、経済、文化、政治、哲学など、英語を用いてインドについて総合的に勉強します。グラマーや発音などの英語の強化勉強は最初の一カ月のみなので、あとの4カ月の授業は通常の講義形式で行われます。インドは英国植民地でしたが、ゴアはポルトガルの植民地だったので、他の州とは一味違ったインドを感じることが出来ます。また、美しいビーチが連なるリゾート地として有名なため、世界中の観光客が沢山訪れます。そのためゴアに住む人々は、そのほとんどが流暢な英語を喋ることが出来ます。インドの公用語であるヒンドゥー語の授業も一週間程度あるので、簡単な自己紹介や読み書きが出来るようになりました。それを使うことによって、リキシャー（インドの乗り物）や果物などを値切るときに値切りやすくなるし、現地の人とのコミュニケーションがより一層楽しくなりました。

インド留学特有のことと言えば、まずは民族衣装です。ジーンズにTシャツといった服装の人もいますが、やはり男性はクルタ、女性はサリーやチュリダという服を着ている人が多いです。私たちも市場で購入し、学校へ着て行っていました。その方が涼しいのでおすすめです。次に食事は、インドではベジタリアンやノンベジタリアンなど特有の食文化があるので、その点に注意しなければならない時もありました。基本的に野菜とカレーですが、飽きたら街に繰り出しレストランでパスタやポテトなどを食べられます。最後に、スラム街や物乞いの人たちの存在です。一歩街に出ると、小さな子どもが必死に口に物を入れる仕草をして食べ物を要求したり、脚の無いおじいさんが脚を指して言葉にならない声でこちらに訴えかけたりしています。私は留学が終わった後、ビザが切れるまでの数日間コルカタという街へ行き、そこでマザーテレサが一身を捧げたマザーハウスを訪問しました。そこでシスターから「あなたの街のコルカタを見つけて下さい」、と教えられました。今まで、とにかく海外に行き苦しんでいる人たちを助けたい、世界中の子ども達を救いたい、と考えていました。しかしこのシスターの話を聞き、自分の住む日本に一つも目を向けていないこと、物理的なものだけではなく内面的な飢えがあることに気付き、もっと身近なところから、まずは周りの家族、友達から幸せにしたい、という考えに変わりました。自分に出来ることは何なのか、自分がどうしたいのかを改めて考える大きなきっかけになったことに感謝しています。

今回の留学を通して一番感じたことは、自分が動かなければ何も始まらないということです。授業で分からないところがあっても、分かるまで質問しなければ先生だって勝手には気付いてくれません。ゲストハウスでじっとしていても、何もなく一日がただ過ぎるだけです。自分から街に繰り出して、偶然入ったお店の店員と他愛もない話をしたり、少し遠いビーチまでバスやタクシーを乗り継いで行ってみたり、そういった積極的な行動によって、自分に自信がつき、思わぬ人との出会いや、何かしらの収穫が待っています。（実際にインドの映画女優さんのお母さんとの出会いがありました！）インドは叩けば響く太鼓のように、私を寛大に受け入れてくれた国でした。

本当に、素晴らしい機会を与えてくれた家族や、応援してくれた周りの人たち感謝です。

タージマハル前にて

ゴア大学（インド）

留学期間：平成21年9月17日～平成22年2月27日

～インドでの日々～

国際交流学科　4年
太田 優子

最初にインドに来て住み始めた時、この環境に比べたら、自分たちがなんて恵まれた環境にいたんだろうと思った。断水や停電は当たり前。嵐にあって、機械が壊れ、インターネットが繋がらない日々が1週間続いたこともあった。建物は開放されていて、室内ではいろいろな虫が飛び交っていた。しかも、手の平大くらいの大きさだ。洗濯機は壊れてて、一日一回しか回せなかった。食事は、毎日カレーだった。そんな日常も帰る頃には、慣れてしまった。

学校は、10時から16時まで、最初の2カ月は、英語の授業。そのあとは専門科目に入った。専門科目は、ヒンディー語、インドの哲学、文化、歴史、社会問題、政治、経営学、経済学だ。専門科目の授業についていくのは、実に大変だった。基礎知識もなく、授業に入っていって、頭に詰め込まれ、入ってから約1週間後には、テストがある。それが終わると、ほっとする間もなく、次の科目が始まる。大変だが、自分の力にはなったと思う。先生方は優しく、質問すると、親切にわかりやすく何回も説明してくれた。たくさんの先生方が日本人のために授業を教えてくれた。印象的でおもしろい先生方ばかりだった。

時々、先生がお家に招待してくれて、おいしい料理をふるまってくれたり、家族と交流したりして、楽しかった。

ゴアの海は最高だ。というか、行くところは海しかない。インドの中で一番小さい州ながら、何十か所もビーチを所有している。しかしながら、波は荒く、泳ぐにはあまり適しているとはいえない。だが、仲間とともに、海に入り遊んでいるだけでも、勉強が続く日々のいい気分転換になる。ビーチ沿いの店に入り、一杯50ルピー（約100円）のキングフィッシャーのビールを飲みながら、海を眺めているのは最高に気持ちがいい。服を売っているお店も多い。デザインはかわいく、しかも値切ることもできるので安い。海に行ったらよく買い物をしていた。

フィールドトリップは、2回行った。北インド（デリー・アグラ）と南インド（バンガロール・マイソール）と行った。電車で行くのだが、2日がかりである。現地滞在時間より、移動時間のほうが長い。印象に残った場所として、タージマハルは驚くほど見事できれいだった。青い空に輝く白亜の宮殿は、実は昔の王様が愛人のために、長い年月かけられて作られた御墓であるというラブストーリーに彩られて、神秘的に輝き、私はとても感動した。

ゴア大学の学生とも、仲良く交流もした。来たばかりで右も左もわからない、日本人をゴアの観光地に連れていったり、近くの街までの移動手段を教えてもらったりして、行動範囲を広げてくれた。自分たちでサリーを仕立てた時、着方を教えてくれた。お返しに、自分たちが持ってきた、浴衣も着せたりして、楽しんだ。一緒に焼き芋をしたこともあった。

毎日が新鮮で、驚きで、楽しく笑いの絶えない、かけがえのない日々だった。また、慣れないことも多く、大変な日々だったが、周りの人の存在に支えられ、乗り切った。外国に住むことで日本の素晴らしさについて再認識した。また、待ってても状況は変わらないので、積極的に行動するようになった。この留学は、私にとって、得ることの多い留学になったと思う。

タージマハル

みんなで食事している所

中期留学

セント・ノーバート・カレッジ(アメリカ)

留学期間:平成21年8月27日～平成22年3月14日

～セント・ノーバート大学中期留学－アメリカ－～

国際交流学科　3年
石丸 奈津美

私はアメリカについてから、沢山の衝撃的で忘れられないような体験をしました。これほど沢山の思いが詰まった経験ができたのは、アメリカで得た多くの外国からの友達や、先生、フレンドシップファミリーとの出会いがあったからこそだと思います。セント・ノーバートでの生活が始まったとき、私は緊張と興奮の混ざったような気持ちでした。なぜなら、日本とは全てが違うからです。言葉はもちろんの事、食事や生活習慣などにおいても多くの違いに戸惑うことも度々ありました。しかし、次第にその違いを楽しめるようになってきました。

まず授業では、生徒の英語の能力に応じてクラスが分けられているので、効率の良い、充実した勉強ができました。授業の中では、プレゼンテーションやディスカッションのようなことを頻繁に行います。それを通じて、違う国々からの生徒達と社会問題や、それぞれの国の違いなどについて話し合うのはとても面白かったです。私達は、同じような意見を持っている時もあれば、全く違う意見を持っている時もあり、そのような討論は私の海外への興味を一層掻き立てるものでした。沢山の国の人々と会話することで、周りの国へ目を向け、自分の国を客観的に見つめ直すきっかけにもなりました。また、熱心な先生達の存在は様々な方面から私達の留学を支えてくれました。授業では自分の意見を述べる機会が多くありました。しかし、自分の思っていることを英語で的確に表現するということはなかなか難しいものでしたが、先生はいつでも私が言いたいことを理解しようとし、またサポートしてくれました。時には、考える時間を与えてくれて次第に私は、英語をしゃべることへの恐怖や不安感を覚えなくなりました。

また、フレンドシップファミリーとの交流も私にとって忘れられない思い出です。私のフレンドシップファミリーはいつも外で釣りやサイクリングを楽しんでいるお父さんのマイクと、陽気で話すことが大好きなお母さんのペギーでした。彼らは休日に、レストランや映画館、ショッピングモールなどに連れて行ってくれて、食事中や車の中ではアメリカの事や英語など様々な事について話してくれました。私が、遠慮して連絡を取るのを躊躇していると、「あなたを助けるために、私達はここにいるのよ。」と優しい言葉をかけてくれました。自分の事を本当の娘のように扱ってくれる二人の存在に、アメリカで家族ができたようなとても心強い気持ちになりました。アメリカと日本では家族間の様子も違い、アメリカでは、愛情表現などをきちんと言葉やハグなどの方法を使ってダイレクトに表現するので、最初は恥ずかしさもありましたが、家族間の距離がとても近く、お互いを本当に大切にしているのが強く伝わってきて、とても温かい気持ちになりました。

今回の留学を通じて、私が一番に感じたことは「人と人との繋がりの大切さ」です。国境を越えた沢山の人々に助けられ、会話を交わし、一緒に涙を流した時には、人種の違いなど少しも感じないようになっていました。アメリカで得た沢山の貴重な体験をこれからの自分の人生に活かしていきたい思います。

卒業パーティーで　現地の学生と

セント・ノーバート大学でのフェスティバルにて　左）本人

セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ）

留学期間：平成21年8月27日～平成22年3月14日

～留学で得たもの～

国際交流学科　3年
港 麻衣

私は大学2年次の後期約7ヶ月間、アメリカで留学をしました。私が留学を決意した理由は、4年間の大学生活の中で、今しかできないことをやりたいと思ったからです。そして、それが中学生の時からの夢であった留学でした。大学2年次がこの夢をかなえるラストチャンスだと思い、思い切って挑戦しました。この7カ月間は、今までの私の人生の中で、一番充実し、輝いた時期だったと言えるでしょう。なぜなら、私はアメリカで多くのことを悩み、経験し、たくさんの素敵な人々に出会い、そして1つの自分の夢を実現させたからです。

留学先では、多くの壁にぶち当たりました。私はなかなかルームメイトと仲良くなれず、部屋に一緒にいてもほぼ会話のないまま一日が過ぎてしまうことがほとんどで、「こんなんじゃだめだ！せっかく留学に来ているのだから！」と自分に言い聞かせ、積極的に自分から話しかけても、返事が聞き取れず、また、日本のことについて話しても相手が全く興味を示さない態度に何度も打ちのめされそうになりました。それでも恥を捨て、拙い英語で何度も話しかけているうちに、5か月ほど経ち、やっと向こうからも話しかけてきてくれるようになり、初めて学校から帰ってきて「今日どうだった？」と聞かれ、こんな些細な会話がとても嬉しかったです。

ESL や CIE の授業では、初めての本格的な英語でのエッセイ、プレゼンテーション、ディベートなど、もともと自分の考えを人に示すのが不得意な私には困難なものばかりでした。しかし、毎日の授業で自分が成長していることを実感することができ、また、様々な人種が入り混じるクラスで自分の意見をしっかりと主張できることの大切さを学びました。また、毎日深夜まで図書館で勉強する生活のなかで、自分がすごく弱音や愚痴を吐きやすい人間だという自分の弱点に気付き、自分を恥ずかしく思い、反省しました。

私がこの留学で得た宝物、それは互いを尊敬し合える仲間に出会えたことです。アメリカでは、様々な国からの留学生に出会うことができました。異国の地で英語を勉強するという、同じ目標・不安を抱え、同じ苦しみを味わい、共に努力してきた仲間、私は彼らと同じ時間を過ごせたことを誇りに思います。そして、互いの国を尊重する心、これから歩む道はそれぞれ違いますが、互いの将来の幸せや健闘を祈る気持ちを大切にしたいと思います。

最後に、現地のチューターに言われたとても印象に残っている言葉があります。彼はよく私に自分に自信があるかと聞きました。私が自信なんてないよと応えると、彼は「1人の女の子が母国を飛び出して半年間も外国で勉強しているのに、自信がないなんて意味分かんないよ。」と言いました。彼はいつも自分に自信を持てと諭してくれました。今は自分の夢を1つ叶えたこと、7ヶ月間乗り切ったことが自分の自信に繋がっています。そして、支えあった友達に恥じぬよう日々努力を続け、いつも自信に満ち溢れている女性でいたいと強く思います。

Farewell party

セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ）

留学期間：平成21年8月27日～平成22年3月14日

A Wonderful Time in the U.S.

国際ビジネス情報学科　4年
中山 佑里子

Ever since I entered Nihon University, I really longed to study at St. Norbert College (SNC) in the U.S. My wish was finally granted when I was in my 3rd year at the University. In the beginning, I had a lot of difficulties with English and culture shock, but I enjoyed meeting new people and experiencing new cultures, and as a result, my way of thinking changed quite a lot while in the U.S.

When I arrived at SNC, I was very worried about my new life, especially about my roommate. However, when I got to my dormitory, I saw my roommate, Gaia from China, waiting for me at the entrance to help carry my luggage, and I was relieved. Even though I could not understand clearly her words, I noticed she was a really nice girl.

One day, when I was walking with Gaia, she asked me something in her fluent English but I could not understand what she said. I always wanted to respond to her right away, so every time she spoke to me I always said "ok" or "Yes". So I did that. Then she said to me, "I noticed you answered me without understanding. If you didn't understand, ask me again. I can repeat it for you." I was a little shocked, but it made me realize that I always tried to agree with others even though I didn' t understand, because that is the polite and respectful way in Japanese culture.

It was my first turning point in the U.S. After that day, I decided not to hesitate to make mistakes and try to understand what everyone said. As my English ability and way of thinking changed, I could gradually share my ideas in English. On the last day, Gaia said to me, "Now you can understand what I am saying. I'm happy that your English has improved since you came here." In the end, I gained confidence thanks to her words. I don't ever want to forget the special time in the U.S that we shared.

6 months in SNC was not enough for me; I wanted to improve my English skills even more, and it was hard to say goodbye to everyone. However, I will never forget the things I have learned and experienced there. Everything is a beautiful memory. I had a good ending at SNC, but it was not the end for me. Because of what I have learned there, I feel that I am at the starting line in my life. That is why I will never forget about SNC. I want to thank all of my friends, teachers, family, tutors, and my roommate, Gaia.

With my roommate ～ Gaia

New Year Party

西カトリック大学付属語学学校（フランス）

留学期間：平成22年2月18日～平成22年8月31日

価値ある体験

国際関係学科　3年
小沼 功毅

私にとってフランス留学は今までで一番のチャレンジでした。私が留学を決意した理由は二点あります。一つ目は日本と違う文化に実際に触れて、文化の違う人々と生活したいということ。もうひとつは自分のフランス語が現地ではどこまで使えるのか挑戦したかったからでした。

全く文化も思想も違う土地での生活はとても刺激的でした。何しろ体験することのほぼすべてが初めてのものだったからです。私が半年間留学したのは、アンジェにある西カトリック大学付属語学学校というところです。アンジェといっても皆さんは聞きなれない名前の土地だと思います。静かで人々も皆温かい、とても暮らしやすい場所です。

私が特に驚いたことは食文化です。まずフランス人の食事に費やす時間はとても長い!! 休日ともなれば知人と一緒にお話しをしながら3時間の食事。しかしそれが私にとってはフランス語を話すチャンスでした。また食べ物にも驚かされました。フランスでウサギを初めて食べました。週末に公園などで開かれるマルシェ（市場）では皮を剥がれたウサギがそのまま売られていました。

良かったことは文化に触れられた点だけではありません。多くの国の違う友達ができたことです。フランス人はもちろんアメリカ人や中国人、カザフスタン人やスロヴァキア人とも出会いました。彼らに出会ったことで様々な国のことを知り、また日本の文化を伝えることもできました。彼らとの出会いは決して忘れることのできない大切なものです。

留学期間中、楽しかったことばかりではありません。もちろん辛いことも経験しました。出発する際は不安よりも楽しみな気持ちでいっぱいでしたが、現地に到着してすぐに言葉の壁にぶつかりました。当初はホストファミリーとの日常的なやり取り、駅でチケットを買うことは困難でした。私自身はどうにか改善できないかと考え、先生やホストファミリーの方に相談しました。それから毎日欠かさずに行ってきたことは「新聞やテレビを毎日チェック」、「パーティーには積極的に参加する」等のことです。これらを行った結果、私のフランス語はみるみる上達しました。それからは旅先でフランス人と話した時に「フランス語上手いね」と言われることが大きな喜びとなりました。出会った人々と道端で小一時間話してしまうなんてことも多々ありました（笑）。

辛いことも含めてとても良い経験になりました。これらの経験は文化も違い、言葉も全く通じない土地で生活したからこそ得られたものだと思います。多くの経験を乗り越えたことで大いに成長することができました。この留学で成長できたことと、現地で出会った多くの人々との繋がりをこれからも大切にしていきたいと思います。そしてさらにフランス語の勉強をし、いつの日か、もう一度素晴らしい国フランスに行きたいと思います。

最後に留学中に力添えをしてくださった家族や友人、先生方、本当にありがとうございました。

クラスメイトとピクニック

クラスメイトと私

トロント大学付属語学学校（カナダ）

留学期間：平成21年9月21日～平成22年8月22日

11ヶ月間のカナダ生活

国際交流学科　4年
建部 美緒

まず1つ思うことは、カナダで良かったという事です。電車に乗れば必ず3言語以上の言葉が飛び交うこの多民族国家で、カナダ以外にも多国籍な文化を学べた事はとても魅力的でした。学校に行く途中、「今日は天気がいいね」とお互い知らなくても気軽に声をかけてくれる近所の人との会話も、優しくてのんびりしているカナダ人だからこそなんだろうなと感じます。

私の行った語学学校はトロント大学付属下にあるため、大学進学を目指すモチベーションの高い学生が非常に多かったです。スペイン、スイス、サウジアラビア、ブラジル、台湾、韓国など様々な国の友達とここで出会うことが出来ました。クラスを通して自分の意見を主張することの大切さを学びました。完璧じゃないとなかなか話せない日本人に対して、文法がぐちゃぐちゃでもガンガン発言していくサウジアラビア人には積極的な学びの姿勢を学びました。

私自身最初の3ヶ月間は先生が何を言っているのか、授業で今何をすべきなのか全く分からない状態で、隣の子に聞いたり周りを見てなんとかついていくというレベルでした。留学中、自分の精神的な弱さと英語力の無さにもがく時期が何度もあり、でもそんな時ある友達に「メスシリンダーの話」を聞きました。「英語とか語学の上達というのは目には見えないもの。でも続けていくうちに段々メスシリンダーに水が溜まっていき、ある時頂点までいくと溢れ出る。その溢れ出たときに初めて自分の成長が実感できるから、今は1つ1つこなしていく事が大事。」それ以来スランプに陥っても、コツコツ自分なりにできることを続けました。英語で毎日日記を書きホストファーザーに添削してもらったり、語学学校だと先生以外のカナダ人と出会う機会がないので、週3回日本人とカナダ人のランゲージエクスチェンジに通い友達の輪を広げたり、同じ映画を字幕なしで10回以上見てやっと理解できたり。半年後、授業の理解度が全く変わり、クラスでも自然と発言できるようになりました。

留学を通して、日本人であることの素晴らしさ、また日本を1つの外国として見るようになりました。イスラム教のサウジアラビアの女の子は10代で結婚し子供もいるため学校が終わったらすぐ家に帰らなければいけない事、歌が大好きで電車でもどこでも大声で歌い出すメキシコ人の友達も、平和なトロントでもG20の会議によって大規模なデモが起こり、プロテスターが警察の車を燃やしたり街が破壊されるのを目の当たりにするなど、多文化共生の良さと難しさも身をもって感じました。英語学習は一生続けていきたいと思っています。語学は才能ではなく、どれだけその人が努力したかによってついてくるもの。自分の中で好きな事を見つけたら、少しこだわってみること。勇気を出して飛び込んでみること。カナダに行かなければこんな風に思えなかったと思います。家族、友達、留学サポートをして頂いた語学教育センターの皆さん、支えてくれた全ての人たちに心から感謝しています。本当にどうもありがとうございました。

ロッキー山脈にて

友達の誕生日パーティー

ストーニーブルック大学（アメリカ）

留学期間：平成22年7月31日～平成22年8月21日

SEEING IS BELIEVING
～百聞は一見にしかず～

国際ビジネス情報学科　3年
橋本 康弘

私はニューヨーク州にあるストーニーブルック大学のIECというプログラムに3週間参加しました。そもそも、私の姉が学生時代にオーストラリアに留学していたこともあり、その影響で高校時代から海外に強い関心を抱いていたことが参加の決め手となりました。IECとは世界各国の学生がストーニーブルック大学に集まり、人種・国籍問わずクラス分けをされ、朝9時からお昼休みを挟んだ15時までの間アメリカ人の先生の下、語学の勉強に励むプログラムです。私は午前の授業だけは日本人のみのクラスでしたが、午後の授業はロシア人・メキシコ人・韓国人・台湾人と様々な国の学生と同じクラスになり共に語学勉強に励みました。それなりにハードな時間割でしたが勉強だけではありません。電車で2時間ほどかかりますが大学から日帰りで大都市ニューヨーク市に行くことができるため、週末には買い物をしたり、私の念願の夢だったメジャーリーグを観戦するなど観光も楽しむことができました。

しかし、最初は戸惑いの連続でした。プリントの内容を理解し、先生が言っていることを理解できてもそれに対する自分の意見を発音良く英語で話す難しさを実感。それに加えて、日本とは全く違う文化・食事・気候で体調を崩してしまい勉強どころではありませんでした。しかし、時間が経つにつれ次第に文化などにも慣れていき、少しずつですが自分の意見も言えるようになりました。そうしていくと自然と他国の学生と友達になることができ、休憩時間にお互いの母国語を教え合い、パーティーを開いたりして交流を深めました。その時に私が伝えたかったことが相手に理解され喜びを分かち合った時の感動は今でも忘れることができません。

充実した3週間の中で語学力の習得は言うまでもありませんが、語学以上に大切なことを沢山学ぶことができました。その中でも失敗を恐れず行動する大切さは今でも印象に残っています。私が英語を上手く話せないからと言い、もし外国人の前でくよくよしていたら先ほど述べた感動や国境を越えた人々の温かさも得られなかったでしょう。確かに英語を流暢に話せない自分に嫌気がさしたこともありました。しかし、全てのことに対して言えますが目的意識を明確に持ち失敗を恐れずスタートを切らないことには何も始まりません。何事にも精一杯アクションを起こす積極的な姿勢こそが大切であり日本に帰国してからもこの教訓を忘れたことはありません。

タイトルにある『SEEING IS BELIEVING』とは『百聞は一見にしかず』という意味。いくら他者からの経験談を聞いてその気になっていても意味がありません。私自身国境を越えた様々な人々に出会い沢山の刺激を受け、価値観が広がり視野をより広く持つことができました。留学は他人に聞くよりも実際に体験することが大事だと思います。この学部には沢山の海外プログラムがあります。もし、皆さんが興味を持たれているならば恐れずに一歩踏み出してみてください。きっと今まで味わったことのない経験や感動があなたを待っているでしょう。

現地の学生とIEC修了式にて

タイムズスクエア

短期海外研修

ハワイ大学（アメリカ）

留学期間：平成22年8月1日～平成22年8月15日

2010 UH Summer Seminar 体験記

専攻科食物栄養専攻　1年　久保田 裕子

2010年ハワイ大学研修（2010 UH Summer Seminar）は，米国ハワイ州オアフ島のホノルル市にあるハワイ大学マノア校にて開催された。

研修期間中の宿泊はキャンパス内にある学生寮で、4人のユニットで1人ずつの個室には机やベッド、タンスが用意されており、自分の部屋のような空間であった。バス、トイレ、洗面所は4人で共同だが、適度にプライベートも確保されているため、とても快適だった。朝夕の食事は別棟のカフェテリアでバイキング方式。メニューが充実していて、ドリンクやフルーツ・デザート類も豊富だった。主食はパン数種類の他、ご飯は白米と玄米が毎食用意されており、ハンバーガーやピザもあった。毎食10種類近くあるメイン料理は2週間の滞在中、一度も同じものが出なかったことには感心した。

現地コーディネーターであるDr. Harumi Karel先生は母のような温かな人柄で私達に接して下さった。Harumi先生のおかげでハワイが大好きになった。日曜日や放課後の自由時間には、ショッピングや観光に出かけた。タンタラスの丘から夜景を眺め、ダイヤモンドヘッドに登り、みんなでバスを貸し切ってノースショアーツアーに出掛けたりして、オアフ島をほぼ制覇！！初めて見る景色や綺麗な海にとても感動した。授業以外にもビーチで泳いだり、美味しいものを食べたり、写真には残しきれない思い出を沢山、心に残すことができた。

ハワイ大学マノア・キャンパスにて

国際交流学科　2年　金井 千晶

ハワイ大学での授業は、到着の翌日から早速始まった。初めての授業はHistory of Hawaiiであった。現地の歴史に関する授業を受けハワイに来た！という実感が沸くと共に、最初から専門的な内容ではなかったことに安心した。私にとっては、移民の歴史やPicture Brideについてちょうど授業で学んだばかりであったので、内容を理解しやすかった。

他には、Nutrition through the life spanやFood safety、Medical nutrition therapyなどについて学んだ。もちろん授業はすべて英語だ。出発前、上田先生が栄養学の勉強会を開催してくれたが、専門的な内容に付いて行くことは、国際関係学部生にとってはやや大変であった。

座学以外にビヨンセやジョニーデップなどのプライベートシェフを務める方が調理実習をし、学外研修では病院や大学の調理場を見学し農場へも行った。どの時間においてもとても貴重な体験ができた。

今後、国際関係学部生が参加するなら、積極的に質問、発言してほしい！英語力を発揮するよい機会だからだ。また、違う分野の勉強ができることはとても面白いし、食物栄養学科生とも仲良くなれるチャンス！参加者全員で協力して予習をすると、理解力も深まる。「英語がなぁ…」と思う食物栄養学科生にも、食文化や栄養学に興味がある国際関係学部生にも是非、この研修に参加してほしいと思う。

夕暮れのワイキキビーチにて

北京大学（中国）

留学期間：平成22年8月3日～平成22年8月27日

短期海外研修に行って

国際文化学科　2年
岩谷 一郎

私は2010年8月3日から8月27日の約1カ月の間北京大学に海外語学研修に行き、中国語の勉強をしてきました。

月曜日から金曜日は午前中の8時から12時まで北京大学の先生による授業を受けました。この授業時間は去年よりも1時間長く受けることが出来たので、とてもラッキーでした。

授業は韓国人留学生と一緒に受けました。そして一つのクラスは10人程度の少人数で行われました。北京大学の先生の授業は、とても丁寧で、分かりやすい授業でした。1回目の授業で、少なからず持っていた不安はなくなりました。会話は中国語か英語で、苦労はしましたが、コミュニケーションをとることができました。韓国人留学生とも、北京大学の先生ともとても親しくなることが出来ました。自分の思っていることや考えを中国語で伝えられた時、また相手の考えを理解できた時、日本では味わえない喜びがありました。現地では常に中国語に触れることができます。机の上で勉強をするより楽しくてより実践的だと強く思いました。この点において現地で外国語を学ぶ利点を感じることができました。午後は自由行動だったのでとても広い大学内を歩きまわりました。大学内にはいくつもの食堂があり、お昼ご飯はいろんな食堂で食べました。値段は日本とは比べ物にならないくらい安かったです。おいしい物もあれば、もちろん口に合わない物もありました。これもまた経験です。さらに地下鉄やバスを使って街にも行きました。バスに乗るにも、欲しいものを買うにも、何をするにも苦労の連続でした。ただ、自分から積極的に行動することによって一日でたくさんの体験ができ、さらに現代中国を肌で感じることができました。

宿舎は北京大学の寮に泊まりました。水が詰まった時やバスタオルが無かった時、インターネットをつなげてもらう時、チェックアウトをする時など、自分で話を着けなければなりません。寮の業従員の多くは18歳前後若者で、英語では伝わらない時がありました。話が聞き取れず、馬鹿にされた表情をされた時は、何とも言えない悔しさが込み上げてきたのを覚えています。このような出来事も、中国語を話せるようになりたい、聞き取れるようになりたいという思いを加速させました。

研修期間後半になると皆北京大学の学生に家庭教師になってもらい、カフェなどで中国語を学んでいました。家庭教師と長い時間会話をすることによって、自分の考えを表現すること覚え、中国語を話すことの恐怖心がなくなっていったと感じました。

休日は観光に行きました。歴史的名所や現代アート、京劇、雑技などを見ました。個人的には雑技に強い印象があります。本当に素晴らしいパフォーマンスでした。中国留学を考えている人は、一つの楽しみにしていいと思います。

その他、日本では決して経験することのできない毎日で、とても内容の濃い1カ月でした。少しでも行ってみようかな、と考えている人は、ぜひ中国へ行くことをお勧めします。「百聞は一見にしかず」です。一生忘れない体験をたくさんする事と思います。

神道にて

夜の出店にて

Devon Intermediate School（ニュージーランド）

留学期間：平成22年2月5日～平成22年4月9日

I got it, Mai !!

国際交流学科　3年
青木 麻衣

2010年2月5日から4月9日までの約2ヵ月間、私はNew Zealandの Devon Intermediate Schoolに派遣され、現地の子供たちに日本語や日本文化を教えました。対象はYear7とYear8の2学年で、日本の小学校6年生と中学校1年生にあたる年齢の子供達でした。子供達は非常に人懐っこく、初対面の私に対して気軽に何度も声をかけてきてくれました。また、中には既に日本語で簡単なあいさつや自己紹介ができる子もいて、異文化に触れる機会が多い学校なのだという印象を受けました。

授業は一日2～3コマで、1コマ大体45分～1時間でした。私が日本の文化として教えてきたものは、福笑い、ひな祭り、子供の日、漢字、動物の呼び方、そして色の呼び方です。毎回の授業が子供たちにとっては興味を惹くものだったらしく、最初は子供たちがはしゃぎすぎて、授業をうまくオーガナイズできませんでした。また、最初のうちは私の英語の発音が悪く、うまく説明が伝わらないこともありました。正直、最初はうまくやっていけるか心配にもなりましたし、緊張もしました。しかし、子供達は私の心配とは裏腹に、本当に日本の授業を楽しんでくれたので、それは私自身にとっても自信になり、やる気を起こさせました。また、子供達は不思議に思ったことや疑問に思ったことをすぐに質問し、時には私を困らせるような質問をしました。質問にうまく答えられるときもありましたが、私にも答えが明確に分からない質問を投げかけてきた子供達もたくさんいました。そういった子供達がいてくれたおかげで、私自身も日本文化についてもっと学ぶ機会を得ることができました。また、Devonの先生方からは授業の進め方や注意点などのアドバイスをいただき、毎回の授業をこなしていくうちに、私のクラスオーガナイズ力も上がっていくのがわかりました。

休日はなるべく多く外出するようにし、New Plymouthの街や人々に触れる機会を多く得るようにしました。博物館や海岸、ショッピングセンターや週末のフェスティバルに行くと、必ずと言っていいほどDevonの子供達に会いました。そこでも彼らは「Hi Mai!!」と声をかけてくれました。TIPに参加応募したときに、「派遣先の地域の歴史や文化を学びたい」と考えていたので、休日はそういったことに時間を費やしました。博物館ではマオリ族やNew Plymouthの歴史を学び、街並みやフェスティバルを見て文化を学び、私にとっては毎日が新鮮で、何をするにも勉強になりました。

子供達からも様々なことを学ばせてもらいました。何よりも「Thank you for your teaching!」や「I got it, Mai !!」と言って笑顔を見せてくれる子供たちがとても可愛く、私も笑顔と元気をもらいました。彼らの笑顔を見ているうちに、「教師」という職業に魅力を感じるようになりました。大げさかもしれませんが、私はこのTIPで「教師」という将来の夢を見つけました。この報告書だけでは語りつくせない、最高の思い出と経験を得ることができました。最後に、TIPで出会った全ての方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

日本語授業

Belgian Garden State School（オーストラリア）

留学期間：平成22年2月5日～平成22年4月9日

～ティーチング・インターンシップを終えて～

国際ビジネス情報学科　3年
小川 綾菜

I'm Ninja I'm Ninja. Who am I？

自分のことを忍者だとしきりに主張したあと私は誰？と聞いてしまうほど緊張で震えながら英語のようなものを必死に話していた2009年6月。

ティーチング・インターンシップのトレーニングが始まりました。

今すべてを振り返ってみるとトレーニング中の私は毎回恥さらしでした。

ティーチング・インターンシップに参加してよかったと思うことは、派遣される前のトレーニングがとても充実していたので失敗と恥を繰り返しながら自分を成長させることができた点と友達であり時に高めあえるライバルと頼もしい先生に出会えた点です。

派遣先であるオーストラリアの小学校 Belgian Gardens State School で楽しく授業できたのも、すべてはトレーニングでの失敗経験があったからこそだと思います。また日本に住んでいながら自国についての知識がないことに気がつき、取り上げたトピックについて調べ、今まで知らなかった日本文化の素晴らしさに気づけたときはとても新鮮でした。

自分が面白いと感じたことを授業で生徒たちに伝えることはとても楽しくまた難しいことでもありました。生身の人間である子供たちとの触れ合いに正解はなくて、日本について教えている私のほうが子供たちからなにか大切なものを教えてもらっているような不思議な感じでした。少し憂鬱な気分で学校に行っても、子どもたちが「Ayana! What are you doing today?」「こんにちは」と、屈託のない笑顔で元気よく言ってくれるだけで心が洗われて一瞬にして温かい気持ちになりました。学校だけでなくホストファミリーから学ぶことも多く本当にかけがえのない時間でした。話す言語や文化は違うのに、赤の他人である私を本当の家族のように接してくれ、お互いの国の教育・政治・食生活・恋愛観などたくさんのことを話しました。また、休みの日は一緒に泳ぎに行ったりピクニックディナーに行ったりして楽しく過ごしました。改めて家族の大切さにも気付きました。大自然の中でのんびり過ごすことで心に余裕が生まれ、今までの日本での自分を見直し、これから日本で何をしていくかを考えてはわくわくしていました。お世話になった先生がよく言ってくださった“英語は手段でしかない”の意味が帰国した今、なんとなくわかるようになった気がします。これからはコミュニケーションの手段である英語の向上はもちろん、英語を使って話す内容をより濃くおもしろいものにするために、ティーチングで培ったチャレンジ精神でいろいろなことに挑戦し吸収していきたいです。みなさんは、なぜ留学したいですか？ティーチングに申し込んだ時の私には曖昧なことしか答えられませんでしたが、トレーニング中はそれを考える良い機会になりました。今は私のように目的が曖昧な方でも，トレーニングを通じてきっと明確な目標や目的が見つかると思いますので，是非ティーチングに挑戦することをお勧めします。最後に今までサポートしてくださったすべての方々には感謝してもしきれません。

With rice ball

Strange face

教員の交流

北京外語大学（中国）

徐　一平　教授　招へい報告

今年5月24日（月）から約二週間の日程で、学部招へい教授として中国の北京外国語大学教授・徐一平先生を三島キャンパスにお招きした。徐一平先生は北京外国語大学日本学研究センターのセンター長であり、中国における日本語教育、日本語研究の第一人者でもある。滞在期間中、学部生や大学院生を対象に、「中国の言語政策と日本語教育の動向」、「中国における日本研究の現状と展望」、「日本語の特徴」、「日本語の主語とは何か」、「言語の翻訳と文化の翻訳」の計5回の特別講義をしていただいた。また、呉川先生と陳文挙先生のゼミ合宿に参加したり本学部の教員との研究交流を行ったりして有意義な意見交換をしてきた。海外での日本語教育の専門家の養成が求められている現在、徐一平教授の訪問によって、中国国内の日本語教育の実績を具体的に知ることができ、日本語教育のプログラムを持つ国際関係学部にとっても非常に参考になっている。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

日本大学国際関係学部
国際交流委員会